資料６－２

岩手県東日本大震災津波復興委員会女性参画推進専門委員会

平成 27 年度における取組について（案）

１　女性参画推進専門委員会の開催

復興における女性参画の推進に関する現状、課題、対応策等について審議を行う。

○　第３回専門委員会（７月 10 日）

【主な内容】

・　復興に係る国・県の男女共同参画関連施策報告

・　いわて復興レポート 2015（案）について

⇒専門委員会での主な意見について第 16 回復興委員会（7 月 14 日）に報告

○　現地調査（９～10 月開催予定）

・　調査日程、調査先及び調査内容についてはおって調整

○　第４回専門委員会（10～11 月開催予定）

【主な内容】

・　有識者による講演

・　なりわい WG の検討内容報告

・　三陸復興・振興方策（仮称・案）について

⇒専門委員会（なりわいWGを含む）での意見について、三陸復興・振興方策（仮称）に反映

・　いわて男女共同参画プランの改訂について

⇒　「いわて男女共同参画プラン」の改訂について、主要指標の目標値の見直しや、新たに設けることとしている『復興・防災における男女共同参画』に関する項目（「目指す姿」「現状・課題」及び「目指す姿を実現するための施策の方向」等）について、意見交換を行う。

○　第５回専門委員会（平成 28 年３月開催予定）

【主な内容】

・　復興実施計画（第２期）の進捗状況報告

・　なりわい WG の検討内容報告

・　平成 28 年度における復興関連事業について（当初予算のポイント等）

⇒専門委員会での主な意見について第 17 回復興委員会（平成 28 年３月開催予定）に報告

２　女性参画推進専門委員会なりわいワーキンググループ（なりわい WG）の開催

被災地における女性の就労をめぐる課題に適切に対処し、地元定着、UI ターンを促進し、女性がいきいきと活躍できる環境づくりに向けた方策について検討を行う。

○　第４回なりわい WG 会議（９～10 月開催予定）

・　平成 26 年度に取りまとめた重要方策（裏面参照）のうち、優先度が高いものについて検討

・　専門委員会の現地調査との合同開催

⇒なりわい WG 会議での主な意見について第４回専門委員会に報告

○　第５回なりわい WG 会議（平成 28 年１～２月開催予定）

・　平成 26 年度に取りまとめた重要方策（裏面参照）のうち、優先度が高いものについて検討（とりまとめ）

⇒なりわい WG 会議での主な意見について第５回専門委員会に報告

参考１　なりわいＷＧにおける主な意見まとめ（方策例）

これまでＷＧで出された意見から、次のような方策が必要(重要)とまとめているところ。

１　就労環境づくり

- 女性が活躍する事業所の情報発信
- 求職者に対するきめ細かな相談対応
- 女性労働者の待遇改善
- 仕事と家庭の両立に向けた環境づくり

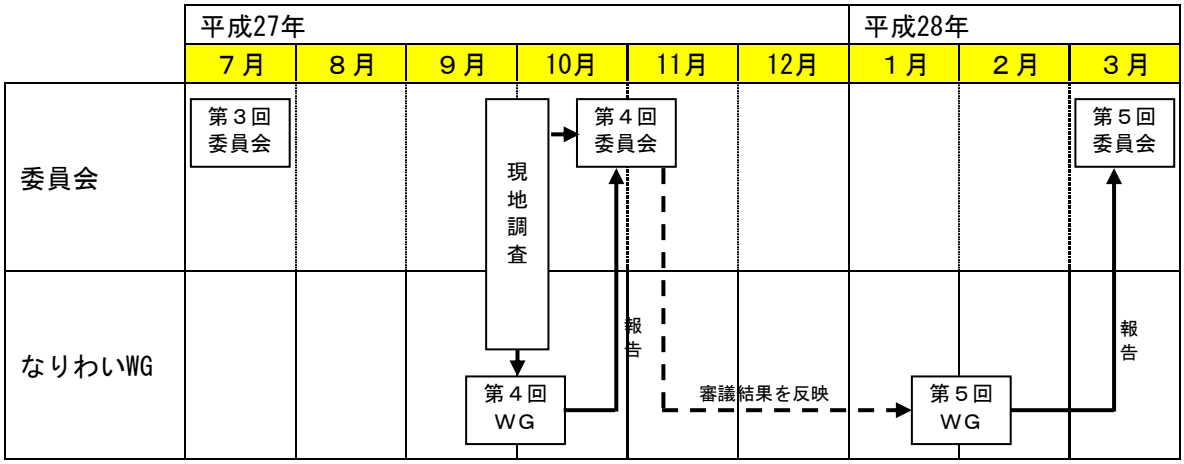
２　起業支援・生業支援

- 起業者への伴走支援
- 被災地の社会的課題を解決するビジネスモデル

３　人口流出抑制・ＵＩターン促進

- 定住支援プログラムの提供
- 女性の活躍の見える化と地域（岩手県）の魅力発信
- 転出者に対する継続的な情報発信

参考２　主なスケジュール



なりわいＷＧにおける主な意見まとめ（第２回女性参画推進専門委員会資料より）

区　分	主な意見等　（敬称略）
１就労環境づくり	【課　題】 ・女性は、収入以外に自分の好みやライフスタイルに合った仕事を選択する傾向が強いため、女性に良いと思ってもらえる職場づくりが必要。（釜石市） ・雇用期間の期限付きの仕事に就いているため、次にステップアップできるかという不安を抱えて働いている女性も多い。（元持） ・女性は、子育て、介護といったケア労働を担うことが多いことから、仕事と家庭を両立できる環境づくりが必要。（山屋） 【方策等】 １　女性が活躍する事業所の情報発信 ・労働力不足の折でも、女性従業員が集まっている事業所の取組を情報発信。（平賀） ２　求職者に対するきめ細やかな相談対応 ・女性求職者の個々のニーズにきめ細やかに対応する相談窓口を設置。（平賀） ３　女性労働者の待遇改善 ・非正規雇用が多い分野での正社員化や賃金アップ等の待遇改善を促進。（平賀） ・「女性が働きやすい岩手県を目指す」キャンペーンを実施。（山屋） ・経営者や管理職の意識改革。（大沢） ・女性管理職を育てるプログラムによる人材育成。（平賀） ・身近なロールモデルを招いて、勉強会やセミナーを実施して、女性が将来のビジョンを持てるよう触発する。（堀、元持） ４　仕事と家庭の両立に向けた環境づくり ・子育てや介護で仕事をあきらないよう、勤務時間の選択など男女ともに柔軟な働き方ができる環境づくりを推進。（平賀） ・子育て中の女性でも条件が整えば働けるニーズがあることから、求職者と事業所のマッチングを行う仕組みをつくる。（釜石市） ・小規模保育や事業所内保育への支援など子育て環境を整備。（釜石市）
２起業支援生業支援	【課　題】 ・起業しようとする女性は、様々な不安を抱えている場合が多く、長期的に支援する仕組みが必要。（平賀） ・震災で商売ができなくなった人への支援が必要。（大沢） 【方策等】 １　起業者への伴走支援 ・起業後も関係機関による伴走支援を行い、志の高い人を応援し続ける。（元持） ・仕事仲間等がいて、周りを巻き込んでいくことが成功につながることから、起業者の仲間づくりを支援。（堀） ２　被災地の社会的課題を解決するビジネスモデル ・地域のニーズや課題に対応する共生型の居場所づくりを推進。（山屋） ・福祉の視点を培い、高いノウハウを身に付けた生活支援相談員等のキャリアを活かせる仕組みを検討。（元持）

区　分	主な意見等　（敬称略）
３人口流出抑制・ＵＩターン促進	【課　題】 ・働き方の選択肢が少ないことから都市に転居する者が多い。（元持） ・女性が一生幸せに暮らせる具体的なイメージができるまちづくりが必要。（平賀） 【方策等】 １　定住支援プログラムの提供 ・定住希望者やＵＩターン希望者が、地域で多様な働き方の選択肢ができるよう、年齢別、ライフスタイル別に支援施策を整理し、女性向けの定住支援プログラムとして提供。（堀） ２　女性の活躍の見える化と地域（岩手県）の魅力を発信 ・様々な分野で活躍している女性にフォーカスを当てて、ロールモデルとして県内外に情報発信。（山屋） ・岩手の女性たちが長く積み上げてきた食文化や暮らしに関する知恵を岩手の宝として宣伝。（平賀） ・豊かな自然環境から生まれる豊富な食材や顔の見える人間関係など、重要な地域資源であり、これらをつかって仕事ができることをＰＲ。（山屋） ・被災地の様々な課題、求める人材を具体的に示し、自分の経験を活かせると思ってもらうことが大切。（平賀） ３　転出者に対する継続的な情報発信 ・転出者に対する情報発信や出身者が集まる行事やイベントなどの開催を継続的に実施し、帰りたいと思う人（Ｕターン希望者）をつなぎとめる。（平賀）